



季刊誌 冬号 笑老ライフ



「笑」って「老」いていける世の中にしたい。

2020.12.20 発行

こんにちは。2020年12月より、NPO法人笑老ライフ研究所は、季刊誌「笑老ライフ」を発刊する事になりました。2020年に感染拡大をしましたコロナウィルス。この状況下に於いて、会員の皆さまとのコミュニケーションがとりづらくなってきました。笑老ライフ研究所としては、皆さまとのコミュニケーションをはかり、私達が伝え拡げていきたい生き方である「笑老ライフ」を、少しでも多くの方々に伝たい!と考えています。

この時代の中で、どんな媒体を活用すればその実現ができるか?について事務局メンバーと喧々諤々の協議を重ね、ようやくたどりついたのがこの季刊誌発刊であります。

今後も、皆さまよりご指導ご鞭撻を頂きながら成長したいと考えています。どうぞ、笑老ライフ研究所を育てて頂ければと、せつにお願い申し上げます。会員の皆さまのご多幸を祈念いたしております。

NPO法人 笑老ライフ研究所 理事長 植木 理美

Smile Photo 素敵な笑顔 ナイスショット!!

写真の方は、2020年7月に起きた九州での大水害で被災をされた方々に温かい食事を届けようと、糟屋郡志免町に本部がある災害ボランティアチーム“チーム田中屋”の田中清昭代表です。この写真は、被災地支援に向かい、さあこれから働こうぞー!と、気合いを入れる時の笑顔の様です。とても澄んだ表情をされ、温かい気持ちを感じる笑顔です。



ギモン? ナンモン? ドンナモン!?

人はどんな時に笑うだろう?

- 嬉しいとき..
- 悲しいとき..
- がんばろうと思おうとき..

あなたは、どんなときに笑いますか?

あなたにとって「笑う」ってどういうことですか?

川柳コーナー



このページでは、笑老ライフにちなんだ川柳を取り上げたいと思います。脳トレをすると思い、コーナーにぜひ参加して下さい。今回は、笑老ライフ研究所のメンバーで詠んでみました。さて、誰がどの句を詠んだと思いますか?

朝霧に たらちね想う 朝陽光	朝起きて 下を向いたら 空元気
ありがとう キラリと光る 犬歯かな	目が合っ 濡れた瞳に 勘違い
お気楽ね 放った言葉に 威力あり	お気楽よ 返す言葉は かすかなり
山紅葉 どこかでみたよな 赤ら顔	青春の 淡い光が 高揚す
踏まれても また起き上がる 露草ぞ	起き上がり 今度はかわす 粘り草

T O P I C

笑老ライフチャンネルが開設されました!

笑老ライフ研究所では、YouTube上で“笑老ライフチャンネル”を開設しました。現在は、ホッとサロンで行った講座を視聴する事が出来ます。



QRコードをスマホで読み取りご覧ください

一般社団法人ユニバーサルマナー協会さんの「認知症の方とのマナー講座」が開催!

「認知症の方との良好なコミュニケーションがはかれる」そんな社会を創ろうと、一般社団法人ユニバーサルマナー協会主催の講座が始まりました。多くの企業さんが熱心に学ばれています。【感性の時代】の中、認知症の方と良好にコミュニケーションができる事はもはやユニバーサルマナーの時代です。



総会が終了しました!

2020年度は、「笑老ライフ研究所版 認知症の方とのコミュニケーション講座」を創ろうと計画しています。会員の皆様と一緒したいと考えています。ご家族等の認知症の方の介護経験がある皆さま、是非ともご参加くださいーい!

川柳・微笑みの写真 大募集

笑老ライフ研究所では、「笑老ライフ川柳」並びに「微笑みの写真」を募集しています。それぞれ年間大賞を決めたいと想っています。皆さま、奮ってご参加ください。

私の笑老ライフ 大募集

併せて、「My・笑老ライフ」も募集しています。人生いろいろ、男もいろいろ、女だっていろいろです。その中で、誰しもターニングポイントになったできごとがあるかと思っています。その生きる智慧を共有し、笑老ライフを生きる仲間の支えにできればと考えています。





My・笑老ライフ

ピンチはチャンス

NPO法人 笑老ライフ研究所
理事長 植木 理美

人にはそれぞれ考え方があり、日々自己決断をしながら生きています。当法人、植木理美理事長もその1人。毎月第3木曜日に開催している「ホッとサロン」の9月の回では、毎年理事長の植木が講演をしている。その講演の中で参加者の記憶に残るワードに「ピンチはチャンス」があった。「植木理事長は、何をしても上手く行かない時や落ち込んだ時どの様にして切り替えているのですか？」との質問に対し、次の様に答えた。「私は、不可能なことなどないと日頃から想って生きています。しかし、時に何をしても出来なかったり、上手くいかなかったりする事があり、そういう時は落ち込みます。その際は、夜、経営をさせて頂いている現場の近くまで行く様にして頂いているのです。そして現場の灯りを見て、今日も〇〇さんが懸命に働いてくれている。この現場は、□□さんが大変な交渉の末に任せて頂いた血と汗の結晶である現場だ。今の私の悩みなんて・・・よし！私もがんばろう！」こうやって切り替えて生きています。この経験から言える事は、ピンチが生まれ変わるチャンスを与えている「ピンチが変わるチャンスを与えている」という事だったのです。



問題やクレーム等、見たくなく・関わりたくないような事が多々起きます。しかしこれらは、まさに自分達の成長の宝なのです。自分達が、何かに気づき、それを変えていく事で、また1つを積み重ね礎を大きくする事に繋がります。多くのご縁の中で生きる命を頂いています。そのご縁や、頂いているこの命に感謝の日々です。今、私がここにいる事ができるのは、そのお陰だと心からそう思います。1つのご縁を大切に。

そのご縁には必ず意味がある。いまあなたに必要なその意味がある。だから1つも粗末にできない。この縁あってこそ私の人生。「ありがとう」の気持ちをのせて、心よりの笑顔でいたい。今日も、心から笑顔になれますように。



My・笑老ライフ

素直に生きる

NPO法人 笑老ライフ研究所
理事 鷹尾 剛

自分に「素直に生きる」。この事に悩み続けた日々は、今となっては懐かしい気さえする。13歳で右肘に異常を感じ、それ以後自分であって自分でないこの身体。全力で野球が出来ない苦しみと悔しさ。その氣を抱え込んだまま進学した大学。遂に交通事故に遭い、丈夫に生んで頂いたにも関わらず身体に障害を負う事になった。そんな私で良いと言ってくれた妻と、3人の子宝に恵まれる。本来は嬉しい事であるが、私の中では素直に生きていない自分が親となり子供達に何を教える事ができる



のか？ この子達を養っていけるのか？と自信のないまま、悶々と日々を過ごしていた。そんなある日、父が末期癌となる。初めて生まれた内孫の男子。俺に名前を付けさせてくれと頼まれる。その父は、人生最期の場所として志免町にある栄光病院のホスピス病棟を選んでくれた。まさに、私を導くかのような出来事であった。この病棟での約2ヶ月。私の心は癒されていった。それと同時に、「全ての人に、父と

私たち家族のような幸せな人生最期であって欲しい」という強い想いが芽生えてきた。あれから23年。私は、今、父が最期を迎えたあの場所で働いている。あの最期を迎えたあの場所だ。そして今、素晴らしい仲間と巡り合え、笑老ライフ研究所の活動や、地域協働のお仕事をさせて頂いている。自分の心に素直



に生きる。流れる運命に素直に生きる。その先には、必ず成るべくして成るご縁が待っているはず。

素直に生きる。そんな人でありたい。

素直に生きる。その出来る人でありたい。

素直に生きる。その生き方が好きだ。